

石川

2018年10月29日

泉投手（金沢星稜大）ソフトバンク6位指名 「夢の中のよう」 「後輩の目標に」

家族、出身チーム 喜びに沸く

二十五日のプロ野球ドラフト会議で、ソフトバンクに六位指名された金沢市出身の金沢星稜大・泉圭輔投手（21）。実家暮らしで野球を続け、夢を実現した。成長を見守った家族はもちろん、小学生時代に所属した学童野球チームの監督や選手も、喜びに沸いている。（小坂亮太）

運命のドラフト当日。父定彦さん（49）、母優子さん（49）、妹萌々（もも）さん（19）は、星稜大で泉投手や関係者とテレビ中継を見つめた。なかなか名前が呼ばれず、張り詰めた空気が漂う。「泉圭輔」。その声が聞こえた瞬間、優子さんは思わず目を潤ませた。

「不安だった」と優子さん。太りにくい泉投手の体重を増やすため、苦手な脂っこいものを避け、試合前は Pasta にするなど工夫した。そのおかげか、体重は高校時代より十キロ増えた。指名された後は「頑張ったねと声を掛けてあげたい」と笑った。

定彦さんは「夢の中にいるよう」と声を上ずらせた。自身も野球経験者。金沢でプロ野球の試合があると毎回、一緒に観戦に行った。「三振を取れて、信頼される投手になってほしい」

指名後に家族で記念撮影した際、泉投手はこの日一番の笑顔で萌々さんの頭をなでた。萌々さんにとっては「よく話し掛けてくれる優しい兄」。実家を離れる兄に「いなくなると家が静かになるな」と、強がりつつも寂しさをのぞかせた。



泉投手が在籍したころの資料を見ながら思い出を語る前茂さん＝金沢市西泉で

泉投手が野球を始めた「三馬クラブ」の関係者も感慨に浸る。小学三年の時、兄亮輔さん（25）に続き入団。当時から監督の前茂さん（50）は「背が高く、六年時はエースで副主将。チームの柱だった」と振り返る。

思い出深いのは六年の春季大会。泉投手が先発し、四回まで6-1とリードしたが、五回に突如乱れた。四球を連発し、後を受けた後輩の投手も勢いを止められず一挙8失点。試合に敗れ、涙を流した。

だが夏、秋の大会では崩れなくなり、秋には二試合連続完封もした。「計算できる投手になった。『悔しい』だけでは終わらない選手だった」

陰の努力が実ったのかもしれない。クラブ代表の東川哲朗さん（52）は、六年生の泉投手が平日の朝六時ごろ、家の近所を走る姿をたびたび見かけた。「自分の息子は当時四年生。六年になったら自分でしっかりやるんだなと感心した」と思い返した。

三馬クラブ出身者のドラフト指名は、二〇〇四年ロッテ五位の大松尚逸さん以来。前さんは「焦らず体をつくり、頑張っている姿を見せてほしい。それが子どもの励み、目標になる」と

エールを送る。

在籍する選手も憧れを抱く。二十八日、三馬小学校の運動場で練習していた能美誠也主将（五年）は「運動場が狭いこのクラブからでも、プロになれるんだと思った。自分も頑張っってプロになりたい」と話した。



ソフトバンクから6位指名を受け、妹の萌々さん（左）、父の定彦さん（右から2人目）、母の優子さん（右）と喜ぶ泉圭輔投手＝金沢市御所町で

今、あなたにオススメ

Recommended by popln

	<p>中日・鈴木翔太 きょう今季初先発 (2018年9月9日)</p>		<p>ソ1-0オ(9日) パンデュークが10勝目 (2018年9月9日)</p>
	<p>楽1-6ソ(11日) ソフトバンクが3連勝 (2018年9月11日)</p>		<p>TTP11、来月30日発効 GDP13%の自由経済圏 (2018年11月1日)</p>